

福岡県の主な農産物の生産状況

令和2年7月1日現在
(専技情報より抜粋)

◇早生水稲(夢つくし、コヒカリ)◇

現在、幼穂形成期～穂ばらみ期で、草丈はやや高く、莖数は平年並みです。病害虫は、ウンカ類の発生がやや多く、一部地域ではイネツトムシの発生がみられます。

移植後の低温の影響で、初期生育はやや遅れていましたが、5月上旬からの高温多照により、生育は回復しており、出穂期は平年並の7月9～15日頃の見込みです。

出穂前に斑点米カメムシの発生源となる畦畔雑草の除草を行いましょう。

また、開花期まで十分な水が必要なため、水を切らさないよう注意し、浅水管理を徹底しましょう。

◇普通期水稲◇(夢つくし、元気つくし、ヒルカリなど)

田植えの最盛期は、「夢つくし」が6月上中旬、「元気つくし」が6月中下旬、「ヒノヒカリ」が6月下旬であり、麦の収穫が早かったことから平年よりやや早く進んでいます。

苗の活着は、田植え後の高温多照の影響により概ね良好で、生育は順調です。

雑草が多い場合には、中後期の除草対策を実施しましょう。

分けつ発生促進と徒長防止、スクミリンゴガイ被害軽減のため浅水管理を徹底しましょう。

余り苗は、いもち病の発生源となるので、直ちに除去しましょう。また、本田でいもち病の発病を確認したら直ちに対策をおこないましょう。

◇大豆◇

現在、周田溝や弾丸暗渠の施工などの播種前作業を行う時期です。

播種は県北地域を中心に6月中下旬から始まりましたが、本格的には7月上旬実施される予定です。

ほ場周囲の作溝と排水口の整備等の排水対策を徹底し、雑草が多い場合は、播種前に雑草対策を実施しましょう。また、天候とほ場条件を見ながら適期播種に努めましょう。

◇アスパラガス◇

5月上旬までの春芽の出荷量は、暖冬傾向で収穫開始後の出荷量の増加が平年より10日程度早く、出荷最盛期は県南で2月下旬～3月上旬、県北で3月中～下旬となりました。細芽傾向のため、出荷量は前年、過去5か年平均よりも少なくなりました。

夏芽の収穫は5月中旬から増加し、6月中旬に出荷最盛期を迎えています。

6月中旬までの出荷量は、前年よりやや少なく、過去5か年平均よりも多い状況です。病害虫は、アザミウマ類やハダニ類の発生が散見されています。

収穫量の増加に伴い、2週間ごとに窒素成分で3～4kg/10aを追肥しましょう。

梅雨期の排水対策を徹底し、気温や湿度の変化に留意して、病害虫の発生初期の対策を徹底しましょう。

◇ブドウ◇

加温栽培は、5月上旬から出荷が開始され、果実肥大・着色は、昨年よりやや遅れていますが良好です。

無加温以降の栽培は、袋がけ後～着色期です。結実は、園地間による差が大きく、露地栽培で開花期に低温遭遇した園地では、やや不良です。

品質確保のため適正着果量を厳守しましょう。また、梅雨期の病害虫対策(特にべと病、黒とう病)を徹底しましょう。

◇ナシ◇

「幸水」の出荷は、加温ハウスは7月上旬から、トンネルは7月中旬からの見込みです。生育は、やや果実が小さいが概ね順調です。

露地の「幸水」「豊水」では、4月の低温による初期肥大不良により、果実肥大がやや小さいです。

病害虫は、5月頃より一部の園地で黒星病が多いです。今後、露地の「幸水」を中心に、裂果の発生やカメムシの発生に注意が必要です。

梅雨期～収穫期の病害虫（黒星病、輪紋病、炭そ病、ナシヒメシンクイ、カメムシ、ヤガ）対策を徹底しましょう。

施設では、果実品質等の状況をみながら、適期収穫を徹底しましょう。

また露地では、誘引等の新梢管理、樹上選果を徹底し、果実品質向上および次年度の花芽確保に努めましょう。

◇施設ギク◇

6月から「フローラル優香」「精の一世」等の夏秋ギク品種の出荷が本格化し、品質は概ね良好です。

白さび病、アザミウマ類の発生が散見されます。また、一部でえそ病の発生がみられます。7月から秋ギク（11～5月出荷）の採穂が始まります。

温度上昇による葉焼け予防のため、遮光剤の塗布や白寒冷紗の被覆、土壌水分管理や換気に注意しましょう。ウイルス発病株の除去とアザミウマ類の対策を徹底しましょう。秋ギクの親株は十分確保し、梅雨期の排水対策を徹底しましょう。また、生育が悪いものやアザミウマ類の吸汁痕の多いものからの採穂は避けましょう。

◇シンテッポウユリ◇

現在、7月出荷作型は発蕾期、盆用の8月出荷作型は抽だい～花芽分化期です。8月出荷作型の「西尾3号」及び「西尾エクセレント」の生育は、定植後の活着に時間を要したものの、現在は平年並み～やや遅いです。

葉枯病やアザミウマ類の発生が散見されます。

アブラムシ類、アザミウマ類、葉枯病の対策を徹底しましょう。特に葉枯病は降雨前の予防に努めましょう

また、梅雨期の排水対策および梅雨後期の葉焼け対策を徹底しましょう。

◇畜産◇

6月の豚枝肉価格は、ほぼ前年並みですが、過去5年平均よりやや下げです。

鶏卵価格は、新型コロナウイルス感染症の影響による業務・加工向けの出荷の落ち込みが回復しておらず、過去5年平均比88%と厳しい価格帯となりました。

暑熱期を迎え、採食量が低下するため、送風や寒冷紗等で遮光し、暑熱対策を徹底しましょう。また、農場の衛生管理を徹底しましょう。